

在宅チーム医療を担う地域リーダー研修 のこれまでの取組状況

平成25年度 在宅チーム医療を担う地域リーダー研修

在宅医療に係わる医療・介護従事者に対する多職種研修を開催し、チームとして在宅療養患者・家族を支えていくための人材を育成する。

日時;平成26年2月9日(日) 10時~17時

場所;高津市民館大会議室 ※30名を超える医師を含め約150名が参加。

研修プログラム

(午前)

超高齢社会における在宅医療(総論)
(宮川 弘一医師(宮川クリニック))

在宅緩和ケアの導入
介護力・在宅の医療・看取り
(宮森 正医師(井田病院))

認知症について
(山口登医師(聖マリアンナ医科大学教授))

(午後)

訪問歯科診療・訪問口腔衛生指導

地域包括ケアと薬剤師

訪問看護

介護支援専門員の役割と仕事内容

地域包括支援センターの業務

川崎市在宅医療連携推進事業について

その人らしく生きるを支える(DVD視聴)

グループワーク①(関口医師(医師会理事))
(在宅医療推進における課題と解決策)

グループワーク②(介護支援専門員連絡会)
(サービス担当者会議)

研修のまとめ(村山医師(医師会副会長))

平成26年度 在宅チーム医療を担う地域リーダー研修

日時;3月8日(日)10時~17時 場所;中原区役所 ※30名の医師を含め158名が参加

研修プログラム

地域ケア時代 在宅医療の役割と期待
(太田秀樹医師(全国在宅療養支援診療所連絡会事務局長))

川崎市における在宅医療推進の取組

GW①(在宅医療を推進する上での課題と「連携ノート」の使い方)(進行;関口博仁医師(医師会担当理事))

がんの症状緩和に必要な知識(宮森正医師(井田病院))

認知症の基本的理解(長谷川洋医師(長谷川診療所))

GW②(事例検討;多職種による在宅療養支援)
(進行;関口博仁医師(医師会担当理事))

がんの疼痛緩和における薬剤師の役割

口腔ケアとブラッシング

研修のまとめ(村山均医師(医師会副会長))



(基調講演;太田秀樹先生)



(GW①発表風景)



(GW②;事例検討発表風景)



(宮森先生)



(長谷川先生)

平成27年度 在宅チーム医療を担う地域リーダー研修

日時;2月21日(日)10時~16時40分 場所;川崎市総合福祉センター ※30名の医師を含め147名が参加

研修プログラム

超高齢社会における在宅医療

(関口博仁医師(医師会担当理事))

川崎市における在宅医療推進の取組

認知症の基本的理解

(北村伸医師(日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター
特任教授))

GW①(事例検討;老々世帯における認知症高齢者への多職種連携による在宅療養支援)

(進行;染谷貴志医師(医師会担当理事))

がんの疼痛緩和に必要な知識

(川越正平医師(あおぞら診療所院長))

GW②(事例検討;がんの症状緩和と多職種連携による在宅療養支援)

(進行;川越正平医師(あおぞら診療所院長))

研修のまとめ(村山均医師(医師会副会長))



(川越正平先生)



(GW②発表風景)



(基調講演;関口博仁先生)



(北村伸先生)

【主な意見】・区単位で色々な職種と顔を合わせて話し合えてよかった
・顔の見える関係づくりを継続して行ってほしい 等

平成28年度 在宅チーム医療を担う地域リーダー研修

日時; 2月5日(日)10時～16時40分 場所; 中原区役所会議室 ※27名の医師を含め154名が参加

研修プログラム

超高齢社会を見据えた未来医療予想図
(飯島勝矢医師(東京大学高齢社会総合研究機構教授))

川崎市における在宅医療推進の取組

がんの緩和医療に必要な知識
(中島貴子医師(聖マリアンナ医科大学病院腫瘍内科部長))
(濱中久尚医師(濱中めいようクリニック院長))

地域包括ケアからケアする社会へ～幸手モデルの取り組み～
(中野智紀医師(東埼玉総合病院在宅医療連携拠点事業室室長))

GW①(ロールプレイを通じて多職種連携を考える～退院時ケアカンファレンスの場面～)
(進行; 染谷貴志医師(医師会担当理事))

GW②(多職種連携に向けた課題と明日からできる解決策を考える)
(進行; 染谷貴志医師(医師会担当理事))

研修のまとめ(村山均医師(医師会副会長))



(基調講演; 飯島勝矢教授)



(中野智紀先生)



(濱中久尚先生)



(中島貴子先生)



(GW①発表風景)

【主な意見】・同じ区が多職種の人たちと交流ができて良かった
・今後も連携を図る上で、情報共有の機会を大切にしていきたい 等

平成29年度 在宅チーム医療を担う地域リーダー研修

日時;3月4日(日)10時~16時40分 場所;川崎市医師会館3階ホール ※21名の医師を含め155名が参加

研修プログラム

超高齢社会における在宅医療

(羽鳥裕医師(日本医師会常任理事 はとりクリニック院長))

アイスブレイキング(地域資源マップづくり)

がんの緩和医療の中での患者・家族の心のケア

(大西秀樹医師;
埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科教授)

GW①(ロールプレイを通じて多職種連携を考える ~退院前カンファレンスの場面~)

(進行;渡邊嘉行医師(医師会担当理事))

認知症患者の多職種連携による在宅療養支援

(岡田孝弘医師;
在宅医ネットよこはま代表 オカダ外科医院院長)

GW②(老々世帯における認知症高齢者への多職 種連携による在宅療養支援 ~介護負担、介護力不足にどのように関わるか~)

(進行;渡邊嘉行医師(医師会担当理事))

研修のまとめ(関口博仁医師(医師会副会長))



(基調講演;羽鳥裕先生)



(大西秀樹先生)



(岡田孝弘先生)



(GW①演習風景)



(GW②発表風景)

【主な意見】・いつもと違う視点から在宅医療を考えることができた。
・多職種チームで方針の決定や役割分担していくプロセスが理解できた 等

平成30年度 在宅チーム医療を担う地域リーダー研修

日時;3月17日(日)9時30分~15時55分

場所;川崎市医師会館3階ホール ※21名の医師を含め159名が参加

研修プログラム

講演①「在宅医療と意思決定支援

—自分らしく生きるための医療の選択—

(西川満則医師(国立長寿医療研究センター地域医療連携室長))

GW①(在宅医療における終末期の課題)

(進行;渡邊嘉行医師(医師会担当理事))

講演②「終末期医療と多職種連携

—アドバンスケアプランニングの活用—

(廣橋猛医師(永寿総合病院がん診療支援・緩和ケアセンター長))

GW②(人生の最終段階における多職種連携)

(進行;渡邊嘉行医師(医師会担当理事))

研修のまとめ(関口博仁医師(医師会副会長))

【主な意見】

- ・各職種の強みや視点を確認できた。
- ・実際の現場で、多職種との連携の場を増やしていく機会が必要。
- ・終末期の意思決定支援についてさらに理解を深めたい。



(西川満則先生)



(廣橋猛先生)



(GW風景)